

第1講座の感想

47.沖縄	社会福祉法人沖縄にじの会	避難所の写真をみた時に約100年間の間様子があまり変わらないという所に衝撃を受けた。震災の時に避難所の衛生問題などがよく取り上げられるが、改善が難しい状況なのかと感じました。そして、災害関連死は申請主義という事も衝撃です。被災されている方は、申請する余裕なんてないんじゃないかと思います。災害時の対応について今、一度見直すべきかと思いますが私達介護施設のBCPについて考えさせられる良い機会になりました。
47.沖縄	沖縄協同病院	災害による直接死と関連死について詳しく学ぶことができた。復興の過程で自死や孤独死が起こり、とくに東日本大震災後は長い期間を経てじわりじわりと増える原因となった原発事故は、本当に過去のこととして風化させずに、原発に反対していく必要があると思った。能登半島地震の復興の中で、今できる被災者に寄り添ったやり方が求められている感じた。
27.大阪	大阪府保険医協会	大規模な自然災害と支援のあり方について整理してお話いただいたので大変参考になりました。特に、今回の能登半年地震の特性や、対策のアプローチなども紹介いただき、災害の対策が多岐に渡ることを改めて知ることができました。基本で重要な視点になると感じました。一方で、最近の能登半島地震対策の報道で見聞きするところは、行政の取り組みが遅く、また消極的に見え、再建の取組をされている人たちに、早く諦めさせているかのように感じてしまいます。私は大都市で暮らしているため、大規模な地震が起きれば暮らしが持たないのではと不安を感じていますか、田中先生から紹介された地域の取り組みに、少し希望が見えました。
00.中央団体	全商連	①避難所のあり様が100年近く変わっていない事実に衝撃を受けた。②改めて、「日本のどこにも原発はいらない」と感じた。未来に対して、責任を負えないテクノロジーは不要。③都市部で防災・復旧・復興のあり方を、地域から起こしていくことの難しさがどうしても横たわっていると思った。
40.福岡	親仁会	大変勉強になりました。自分自身も日本は災害に強くなったと思ってきていましたが、ここ数十年の話には興味をまたました。また、仮設住宅、災害公営住宅での孤独死と発見までの関係性は、今後どこで起こるかわからない災害対策に活かしていきたいと思います。災害が起こり、復興までの道のりは長いと感じますが、国家主導で地域の意見があまり活かされないことについて、誰のための復興なのかと感じるばかりでした。
36.徳島	徳島健生病院	第一講座の田中正人先生の「災害復興政策と根本問題」では、自然災害の推移は高度経済成長期からバブル崩壊の間は災害散发期と言われ、災害はあるものの運よく多発していなかったため災害についての意識が低下し、向き合えていない状態で1995年の阪神淡路大震災以降災害多発期に入った。このため、災害対策や国の政策は自然災害発生時に対応できず、災害による死者のみならず災害関連死の割合が増加していることに驚きました。国や自治体の政策は、地域住民の声をうまく反映することができないため「ノイズ」と考えるようになり、地域住民より国・自治体主体の政策となってしまうことの問題性を訴えていました。復興の主体は誰なのか、誰のための政策なのか、と地域住民が主体となって地域の特性に応じた対策・政策を考え、実行していくことが大切だと思いました。また、住民同士での協力や話し合いを繰り返し行い、住民への情報共有をしっかりと行うことで災害から命を守ることがで

第1講座の感想

		きている地区もあり、その取り組みを全国に広めていくことも重要だと思いました。
38.愛媛	愛媛生協病院	南海トラフの危険性も高まっている今、タイムリーなお話を伺えて良かったです。行政は経済的な効率化ばかりを求めています、被災者の実際の生活については全く見ていないのだと思いました。
40.福岡	大牟田市社保協	幅広い社会保障の中で、災害復興の視点からのお話でした。特に台風が猛威を振るっている時でもあり身近に感じられ、そして大変分かりやすいお話で、抵抗なく自分の中に落とし込めた気がします。中でも関連死において、復興団地ではコミュニティが小さいほうが死者数や孤独死数が多いデータには驚かされました。「復興の主体は誰なのか？誰のための政策なのか？」の問いが、ケアの倫理につながることに気づかされました。「復興」に抗わなければ住民の意思を守れない事例にはすごいと思う反面悲しいと感じました。
27.大阪	茨木居宅	被災された地域の防災対策が勉強になった
34.広島	広島民医連	日頃から自分たちの住んでいる地域の事(どんな場所で、どんな人が住んでいるのか)を知る機会を作り、話し合っておくことが、一人一人の命を守るために重要であることがわかりました。そして、自分達でどんな取り組みをしないといけないのか、行政には何を要求して一緒に解決をしていかないといけないのかを、考える時間を持たないといけないと感じました。生協の組合員活動や地域訪問はそのツールとして使えると感じました。
34.広島	広島民医連	復興政策があったとして、それぞれ自治体の生活再建に不平等、格差が生じていることや、孤独死、災害関連死の実情を知ることができました。一人一人の声や権利が国にとってはノイズとして扱われ、復興の主体は誰なのか、誰のための政策なのかを軽視して復興政策がすすめられていくことに怒りしか感じません。被災者は我慢すべき、自力で立ち直るべき、自己責任などの悪しき認識の根っこは払拭して、被災者に寄り添い、そこに生活している当事者たちがどう暮らしていきたいが、何を選択してどう決定していくかをもっと尊重してこれからの復興政策を考えてほしいです。
00.中央団体	全日本民医連	日本の災害時避難所の様子が、現代になっても戦前と大きく変わっていないという事に衝撃を受けた。また、復興政策を行う側が復興の主体が誰になるのかを考慮せずに政策を進める現状にあるという分析にむべなるかなと思った。各地の被災者の主体的な実践の具体例の紹介があった。効果的な災害復興を進めるには、地域により特性を踏まえつつ、いかに被災者の意見やニーズをとらえ、具現化していくのかが必要だと思った。
27.大阪	吹田市職員労働組合	「私たちの事は私たちで決める」と住民の方がたによる実践に感銘を受けました。全体の予算が、「与党政治家に献金した業者がもうかる？住民の方々には配慮無き復興予算編成」かと思ったなか、「諦めでなく、ピンチをチャンスにしてきた方々からも学んで自分たちにできる実践を」と、(中々難しいですが)、今日の学びを他の方々に伝えようと思います。感謝です。
40.福岡	親仁会	大変勉強になりました。 自分自身も日本は災害に強くなったと思ってきていましたが、ここ数十年の話には興味をまたました。 また、仮設住宅、災害公営住宅での孤独死と発見までの関係性は、今後どこで起こるかわからない災害対策に活かしていきたいと思います。 災害が起こり、復興までの道のりは長いと感じますが、国家主導で地域の意見があまり活かされないことについて、誰のための復興なのかと感じるばかりでした。

第1講座の感想

00. 中央団体	福祉保育労	<p>自然災害の100年間の推移など科学的に分析しつつ、近年の震災の教訓に具体的にふれて、復興の主体を軸にした復興の重要性を明らかにしていただいた。科学的かつ具体的で非常に理解しやすかった。</p>
29.奈良	ならコープ 労組	<p>復興政策に問題があることは認識していましたが、ここまで酷いとは思っていませんでした。「ノイズ・キャンセリング政策」に抗う人たちの事例は、憲法 22 条の問題でもあることを認識しました。公共の福祉が、国家にとって都合のいいように解釈されて国民の権利奪っている事例であり、大きな問題として考えていかなければならないと思いました。</p> <p>また、「孤独死」のお話では、70 歳以下の方では「自死」が多くを占めており、社会的な繋がりを絶たれてしまう現状が良く分かりました。</p> <p>私が今住んでいる賃貸は、前に住んでいた方が自ら命を絶たれたそうです。詳しくは教えてもらえませんが、恐らく東北の方から 10 年ほど前に来られた方だと聞いています。ですので、もしかしたら、、と考えてしまいました。</p> <p>被災され、住むところを失い、辛いことを思い出したくないから移住を決める方もいると聞きますが、その先でのコミュニティーの形成は、一人ではとても難しいことだと思います。今後、そういった支援にも目を向けて行動していきたいと思います。</p> <p>最後に、お話の全体を通して、「自治」の重要性を再認識しました。</p> <p>私は生協で働き、労働組合で活動していますが、どちらも「自主・自立」そして「民主主義と自治」を掲げています。</p> <p>政府に頼り切らずに自分たちの事は自分たちで決める。そのように闘ってきた歴史を踏襲し、私も活動を続けていきたいと思っています。</p>
25.滋賀	こびらい生 協診療所	<p>災害時の避難所が 100 年も前から変わらない環境であることに驚きました。私自身、地震や水害などの災害を経験したことがなく、避難所という所がどういう所かはあまりイメージがつかず、教科書やニュースで見た実態しか知りません。講義の中で驚いたのはトイレ問題です。運動場に穴を掘って用を足していると聞いて驚きました。羞恥心・感染や様々な面から考えても有り得ないことが起こっているのだなと知りました。災害復興も過去 1 番遅れているのはニュースで知っていましたが、裏金問題の一方でこんなに苦しんでいる人たちがいることを改めて知り、政府の支援のなさに怒りを感じました。また診療所で働いてる者として凄いなと感銘を受けたのが、診療所が翌日から往診を開始していたことです。今の診療所に入職して、まだ 2 ヶ月しか経っていませんが、受診が困難な利用者の元に往診が行くことの重要性を実感しています。職員の方ですら大変な状況の中、往診に行っている人の安否や困りごとを解決したい！と思われていたのかと思うと心を打たれました。こうした災害時の診療所の実態をもっと知りたいと思いました。</p>
27.大阪	淀協勤労者 厚生協会 相川診療所	<p>阪神淡路大震災の日に神戸の職場で体験され 大学で地域復興の研究を永く続けけた 普段は中々聞けない話聞けて良かったです 100 年経っても殆ど変わらない避難所体育館の写真は衝撃でした人</p> <p>被害の特性見る Damage 興味残りました 先生が何度も言われてた 復興の主体の主体は誰かの言葉も強く残ってます 住みやすい街作りをする為には声を出して行かなければと思いました</p>
27.大阪	大阪府保険	<p>「復興の主体は誰か、誰のための政策か」今でも強く頭に残っている言葉です。</p>

第1 講座の感想

	医協会	<p>被災した後にすぐに生活の主となる場の避難所。100年前と変わらぬ姿に言葉を失いました。時代は変わっているのに、気候等の変化もあるのに・・・。</p> <p>福祉避難所へのマッチングがうまくいかず機能しなかったり、制度と実態が合わないという状況が起こっているのは“誰のための”が抜け落ちているからこそだなと感じました。</p> <p>そして、一時避難の後には、もちろんですが生活が続きます。</p> <p>当事者不在、国家主導で進んでいくため、必然的に当事者は置き去り状態。ここから、災害関連死や孤独死に繋がっていくことを知り、さらには、それぞれの地域の復興事例から、その地域での普段からのつながりの大切さを感じ取りました。</p> <p>都市には都市の、地方には地方の、どちらにも役割や特性があること、「ここに住むのは私たちで、あなたたちじゃない」という言葉、当事者でない人が決めつけるのではなく、当事者の言葉を聞くことの重要性を学びました。</p>
33.岡山	水島協同病院	<p>被災直後の避難所写真が、1930年の北伊豆地震、55年の伊勢湾台風、95年阪神大震災、2018年西日本豪雨と全然変化がないのが非常に驚きでした。また、2016年熊本地震で壊滅的な被害を受けながら、平素の災害訓練が功を奏し、地区の住民全員を救助した熊本県西原村の事例や、東日本大震災で津波の被害を受けながら防潮堤を作らず早期生業再開を住民の手で選んだ釜石市花露辺地区の例、住民主体で防災に取り組んだ3つの事例はとても興味深く聴きました。</p>
19.石川	石川県社保協	<p>これからの復興政策に大切なこと、「誰のための何のための復興か」を繰り返し問うていきたいと感じました。石川県内の自治体で現在復興計画が策定されています。当事者不在、NOISE化されてしまう住民の声を拾い上げる支援活動を今後も続けたいと思いました。</p>
40.福岡	社会医療法人親仁会	<p>公共の福祉が変質していること、個人の権利への介入対立への無関心を感じます。本来の公共の福祉にもとづく個人の尊重と公正な市民社会の形成を目指していかなければと感じました。福島の子どもたちと交流することが学生時代にありましたが、復興の主体は当事者であると感じたことを思い出しました。</p>
40.福岡	福岡医療団 たらりハビリテーション病院	<p>災害発生時の避難の際などに、地縁の力で情報共有が図られていたことを(いつも沿岸部に軽トラが止まっている、かぎは開いている、など)興味深く感じました。地縁血縁の互助はとても力になりますが、それが都市部ではなかなか想像しづらいと思います。このような互助の関係が都市部でも科学的組織的にできないかと思います。都市部ではなかなか知らない人に対して互助をおこないづらいと感じます。</p>
13.東京	東京民医連	<p>地震や台風、豪雨などの自然災害が相次ぐ中、温暖化により災害の規模も被害も大きくなっているように思います。東京近郊はいつか起こるであろう大災害に備え切れていないのが現状ではないかなと思います。今回話を聞いて「非常時に助け合える関係性」というのがとても大切なのだと思いました。避難所や仮設などでの環境の変化や人とのつながりでのストレスなどにより災害で亡くなるより関連死の方が多いう災害地もあると聞き驚きました。何より驚いたのはこれだけ様々な便利グッズが発明される中、避難所の光景は1930年から何一つ変わっていないということでした。復興については小さい集落ではあるもの日ごろの訓練が活かされ、復旧に向け自分たちはどうしたいか、集団で決定しそれに向かい取り組んでいくことはとても素晴らしいと思います。物理的な復興ばかりの政府や自治体のやり方に従うのではなく、</p>

第1講座の感想

		誰のための復興で何のための政策なのかということをしっかり念頭に置いて取り組むべき課題であること、私自身も人任せではなく地域の班会や職場の地域活動に参加し考えていきたいと感じました。
27.大阪	茨木診療所	<p>田中正人先生のお話し(震災復興と自治体問題)で、何方かも発言されていたかと思いますが、これまでの震災で避難場所の光景は変わらない点が紹介されていました。あらためて納得する点と何で変わっていないのか? という疑問と同時に必要な手立てが機敏に対策が来ていないのは、何故? 疑問がありました。今後の南海トラフ地震がこの30年間に必ずある事が言われら中で、本当に力を入れて、政府としての予算や対策に集中してとりこんで欲しい事を強く感じましたし、今回の社保学校の田中正人先生のお話しを聞いて思いました。</p> <p>もう1点は、震災に遭われた住民の「移住問題」ですが、やっぱり長年住んでいる町は誰でも離れたく無いと思います。それに相応しい対策を国あげて取り組むべきと強く感じました。</p>
18.富山	富山民医連	<p>日本での関東大震災から100年間における災害の歴史とともに、災害には「多発期」と「散发期」があることが認識でき、全体を知ることができた。改めてスポットで対応を考えるのではなく、全体を振り返ることで意識することができると感じた。「復興の主体はだれか?」という問いかけは、当たり前だが、しっかりと整理して、常に意識した活動が必要。分断をつなぐ、公共の福祉、個々の権利や自己責任などを乗り越えて、自治体、国が責任を持つべき分野だと感じた。「ここに住むのは私たちであなたたちじゃない」本当にそうです。住民本位の復興を求めていく必要がある。</p>
38.愛媛	愛媛民医連	『公共の福祉』を初めて理解できたと思います。被災者不在の復興はもうやめさせなければと思いました。非常に学びの多い講演でした。録画をもう一度視聴して、学びを確かなものになりたいです。配信希望!
36.徳島	徳島県社保協・徳島県民医連	日本の災害が増加していること。避難所のひどい環境にはコトバもありません。また、関連死が申請主義だとは知りませんでした。防災対策は人と人との結びつきが大切なことを実感しました。改めて生協の地域活動が防災の上でも求められていると思いました。
47.沖縄	沖縄医療生協 浦添協同クリニック	元日の能登半島地震をはじめ、ここ最近では地震が多く、災害について考えさせられる事が多くなっている。日頃から災害について備えておく事も重要都感じた。
27.大阪	大阪民医連	南海トラフの認識が甘く気の引き締まる思いです。津波が3分で来るとは、、、私用で退席しました。すみません。
25.滋賀	滋賀民医連	<p>避難所の光景が100年も前とほぼ変わらないことに衝撃を受けました。仮設住宅と災害公営住宅での孤独死の実態をはじめ知り、より広い意味で災害関連死の定義をとらえることができました。災害急性期を生き延びた命、災害がなければもっと生きていられたであろう命が失われていくことは防がなければいけないし、政治が責任を持つべきです。</p> <p>現状の災害復興政策は被災当事者に自己責任と我慢を強いている、基本的人権や居住地を選ぶ権利を奪っている、という指摘はその通りだと納得したと同時に、被災非当事者が知らず知らずのうちにその姿勢を許容してしまわないように、当事者の声をきき現場を見て自分事として考えることがまずは大事だと思いました。</p> <p>福島や能登の復興・被災者への補償が進まない背景には、当事者不在・官僚主導の「復興」政策があることがよくわかりました。災害対策や復興を名目にして被災地とは直接関係の</p>

第1講座の感想

		<p>ないところに予算の大部分を振り分けて、結局得をするのは仕事を受注する業者や企業というふうになっているのではないかと危惧します。大企業優遇の自民党政治の弊害が災害復興の分野にも表れているのだとの認識が深まりました。居住地選択の権利を保障し、被災者が元の暮らし・望む暮らしを1日でも早く再開できるように国は支援しなければいけないし、支援するよう求めていくことが必要だと考えます。被災者が復興の主体となれているか・被災者のための政策になっているか・公共の福祉を口実に個人の権利を押し込めるような政策になっていないか、などの視点を持ちながら、国が行う「復興」政策を監視しなければいけないのだと学びました。</p> <p>被災者の主体的実践や防災まちづくりの実践からは、自治体の力の大きな可能性を感じました。</p>
熊本	水俣協立病院	<p>自分にとって地震による被災は、東日本大震災後であってもどこか遠くのこのように考えていました。しかし、熊本地震被災後はどこにいても発災の可能性は同じだと痛感しています。ほとんどの地震が直接的な被災により亡くなる方よりも関連死の方がはるかに多い現実には、日本の復興政策の誤りが表面化していると思います。田中先生は「日本の復興政策は、被災者復興よりも空間の復興を優先してきた」とお話しされました。インフラを復旧することは生きていく上で当然急がなくてはならないものですが、被災後の関連死の多さから見えてくるように「復興の主体が誰なのか」「誰のための政策か」という根底の部分が無視された復興政策なのだと思います。資料にあるように「エリート主義に基づく当事者不在の前提」であると感じます。その事は、水俣病、優生保護法など当事者の人権を無視した国の政策と共通しているのではないのでしょうか。</p> <p>一方で、コミュニティ内での日常的な繋がりが災害時に最も生きてくることのモデルケースとしてご紹介いただいた熊本県西原村の取り組みで、平時から訓練を行い想定しておくこと(主体的実践)で命を救う可能性が高くなることが理解できました。訓練だけではなく、コロナ禍以降忘れてきた忘新年会やお花見などコミュニケーションで相手を知り、信頼関係を築くことも重要なことだと再認識しました。</p> <p>このまま地球温暖化対策が前進できなければ、台風、線状降水帯の発生など地震以外の災害も増えていくことが想定されます。一住民として、医療機関で働く職員として、平時の訓練と併せて自治体キャラバンなども活用し働きかけを行っていきたいと思います。貴重なご講演をありがとうございました。</p>
沖縄	沖縄民医連にじの会	<p>これまで「公共の福祉の名のもとに、個人の権利や自由が蔑ろにされる」ということを考えたことがなく、本日の講義でなるほどそういうことも確かにある、当事者の主体性の保障など当たらな復興を構想するための視点を学ぶことができ、また各地の住民主体の進んだ事例を聞くことができ非常に有意義な時間でした</p>
千葉	松戸社保協	<p>伝統的に特に被災された方たちの姿と問題点を伝えていただきよかったです。後半の「復興」に抗う被災者の主体的実践の各地域からの姿は平時のコミュニケーションの大切さを考えさせられました。</p>
大阪	大阪府保険医協会	<p>復興の「主体」は誰か、という基本的なところに立ち返ったご講演でとても勉強になった。都市計画がご専門の立場から、復興過程での空間利用、空間形成という視点に言及していて面白かった。被災者個人の実践が「ノイズ」として、行政側にかき消されないようになっていくと</p>

第1講座の感想

		いいなと思う。
埼玉	医療生協さ いたま	関東大震災以降の災害の歴史や特徴が学びました。災害多発の時代になっていますが、被害を最小限化するために、日頃からの地域のつながりづくりの再構築は喫緊の課題だと感じています。まずは「被災スイッチ」の地域での共有化が図れるよう、自分の所属する組織や地域で動きを作りたいと思います。被災時は特に一人一人の人権がクローズアップされますが、普段から人権意識を高めて、あまりにも不十分な日本の社会保障の実態を問題にする必要があると感じました。
徳島	徳島県民医 連	改めて避難所の環境の悪さ、100年前から変わらない人権無視の状況に愕然としました。台湾やイタリアのように、被災しても普通の日常生活が送れる避難所とその運営ができるよう、行政を中心にボランティアも交えたシステムづくりを急いでほしいと思う。また、災害関連死が災害による直接死より多い場合があるとのデータや災害関連死が遺族によって届けられないと認定されず、実際はデータより多いという事実にも驚いた。復興についても主役は被災者一人ひとりであることを忘れてはならないと思う。
徳島	徳島県民医 連	災害復興政策の貴重な話を聞くことができ、自分の知識不足を再認識しました。復興に関して、もっと私たちの声を聞いて国も動いていく制度になってほしい。
兵庫	兵庫社保協	震災復興の研究で誰のための復興かを追手門大学の田中正人教授が講演。石川社保協の能登半島地震の報告と自治体労組から保健師の報告を合わせた。国土強靱化からノイズキャンセルをすすめる自治体、そこが組織するボランティア。コンパクトシティー構想。公共の福祉のすり替え。これらに対抗するのは、あつまって話し合うのが大切。
愛媛	愛媛民医連	災害多発時代の今日において、平時からの備えとともに考えておかねばならない課題が鮮明になった。100年前と変わらない避難所の写真は衝撃、国の防災対策や復興対策の姿勢が問われる。諸外国では避難所のTKB(トイレ・キッチン・ベッド)が整備され、企業も参画しているのに。被災者の体験や主体的実践から学ぶ災害対策を当事者目線で推進することが重要だと痛感した。
千葉		第1講座特別報告(石川社保協・藤牧圭介氏、自治労連・山本民子氏)の感想も別ではなくて同じ枠の感想にしました。申し訳ありません。 「災害復興政策の根本問題」というテーマは少し自分にとって遠いテーマという先入観がありました。が、大切なことはいつも同じベクトル(結論)になると思いました。地震は自然現象ですが、災害を大きくし被害を大きく、長引かせるのは社会的システムや政治的な問題が大きく、またその復興が誰の為に行われるのか、という問題も同じであると思いました。 具体的な所で印象に残ったのは団地など小さい地域(場所)で孤独死が多く、しかしまた住人の多い災害公営住宅で孤独死が多い、との驚きの結果がありました。一見した人数の多さや密度の濃さなどで判断はしにくく、しかし結局良く見てみれば人間関係の希薄さや繋がり の薄さが人間の健康や死に大きく影響することが明らかになっていると思いました。逸れますが、医療界ではSDH(健康の社会的決定要因)と言う古くて新しい言葉が改めて見直されており「飲酒や喫煙より孤独、孤立が健康や命に影響を与える」ということを改めて想起しました。また「災害関連死」と言う言葉も民医連の意志が阪神淡路大震災の時に初めて使用し、明らかにしたことも同様に思い出し、つまりは人の繋がりが命を繋ぎ留め、健康に強い影響を

第1 講座の感想

	<p>与える、と言う事実を医療人として再認識しました。</p> <p>阪神淡路大震災とさらには東北大震災で悪しき共通項は国家官僚主導の「復興」と私は認識しております。「復興」も大企業中心であり官僚主導であり、生活インフラは後回しにされ、市民や住民がノイズ化された事にも深く頷きました。それに抗するのは住民自治、つまりそこに住む「私たち」の強い要求と私たちが「決める」と言う民主主義の基本に立ち戻る事も古くて新しい気付きでした。「公共の福祉」という言葉は恐らく改憲論議(緊急事態条項の創設)でも、そして旧優生保護法でも体制側の都合で濫用、誤解釈され、個人の尊厳や人権を矮小化されてきたと思いますし、これからも注視したい言葉です。インフラ整備の為に当事者が不在化されノイズ化されぬ様に、私たちは「個人の尊厳と公正な市民社会の形成」を選択したいと思います。</p> <p>東北大震災の4日後に医療支援の一員とし現地に入りました。住民の方々が体育館に押し込まれ、まったく個人の尊厳も何も得られないままの状況を目の当りにして、強く感じたことは、結局震災前にも政治災害はそこに存在していました。それは、医師、看護師、保健師、介護施設、医療機関…社会保障に関わるあらゆるものが削減され続けて来た事実。災害はそれを暴露し肥大化したに過ぎず、緩慢な政治災害と言うべき災害は現在進行形で進んでいるという事です。それに抗する社会保障の障壁、砦を構築してきたのは社保協運動であることも改めてそれに関わる意義と任務の大きさも自覚するので、つまりはそれが被災防止の最大の一助となる事も気付きました。そして、微力ですが千葉市の社保協運動を進める為に頑張ろうと思いました。</p>
--	--

第1 講座特別報告(石川社保協・藤牧圭介氏、自治労連・山本民子氏)の感想

47.沖縄	沖縄協同病院	能登半島地震の現状や、民医連の関わりが学べた。災害について、被災者が望む形が何なのかを知ること、被災者が気持ちを我慢して押し込まず、発信して、望む形をサポートする復興が必要だと思った。
27.大阪	大阪府保険医協会	藤牧さん、山本さんのどちらも地域事情や取り組みを紹介いただきありがとうございました。自治体職員が減らされている中で、大変なご苦勞と課題がたくさんあったことを知り驚きました。全く知らなかったことだったので、たくさん方と共有したいと思います。
		・前講義と関係しているが、今の災害対策が役に立たないくらいの、甚大な被害があったことが、報告をもってわかった。災害は水道などのライフラインが停止し、家族やコミュニティの崩壊を招く、また医療機関も機能せず、避難所も足りず、衛生面も悪い劣悪は環境で生活を強いられた方は本当に大変だったと思う。未だ復興の兆しが見えない中、政府はきちんと向き合い、災害復興対策について、考えてほしい。私たちも現状を訴えていかなければならない。
40.福岡	親仁会	社会保障が削られ、平時にギリギリの大勢でまわるような、そこが無駄のようか考え方では、人のいのちは守れないと思う。 エッセンシャルな労働者が人間らしく暮らせる社会は、全ての人にとっても安全な社会だと感じます。
36.徳島	徳島健生病院	能登半島地震後の活動報告で困ったことの多くの人が水道管破裂による断水で飲み水や排泄、入浴などに使用することができないことだったこと。次に医療や介護、り災証明になどの申請に関する行政対応への不満が多く聞かれていたことを聞き、本当に何も整っていない安心な暮らしなんてできないと思いました。また、今後の課題として、あまりにも遅い復旧が地域住民への生活に大きな影響を与えました。復旧率は熊本地震の10分の1しか進んでいないことや市町村の災害計画が26年前から見直されていなかったことに唖然とし、行政は地域住民の安心できる暮らしを本当に考えていたのか疑問に感じました。行政はボランティアや他自治体からの派遣に頼らざるを得ない状況を把握していたにも関わらず、困難な状態になってしまったことを反省し、今後どのように取り組んでいかなければいけないのかしっかり地域住民とともに考える必要があると思いました。
38.愛媛	愛媛生協病院	平時にあわせて病院の統合や人員削減をしていたら、非常時に全く対応できないことがわかりました。地方自治体で働いていらっしゃる方の苦勞もわかりました。
40.福岡	大牟田市社保協	能登震災の現状を、医療と自治体の2つの視点からの報告でした。共通して感じたのは、現場の苦勞とジレンマでした。「公共の福祉」が国側都合で解釈を曲げられ、報道され、私達もそれに流されてしまいがちですが、ケアの倫理に戻って考える重要性を感じました。
27.大阪	茨木居宅	防災道路の必要がわかった。町作りは地域の理解が必要だが作り上げる必要がある。
34.広島	広島民医連	災害時に、普段は地域の助け合いの力で地域の中で暮らせていた高齢者や障害のある方たちが、どんなことで困るのかを、想像して、対応できるように対策を立てておくことが重要だと思いました。住民要求や国民の要求をしっかりと伝え対応して貰うためには、公務員の人数は一定必要であるという事を国民自身が認識しないといけないと思います。

第1 講座特別報告(石川社保協・藤牧圭介氏、自治労連・山本民子氏)の感想

00.中央団体	全日本民医連	能登半島震災から半年が過ぎても十分な復興がされていない現状を知った。また、民医連のような民間組織の震災支援とともに、公務労働者の苦労やその役割の重要さも知る事となった。いずれにしろ、大規模災害時には国や自治体トップの姿勢が重要である事を再認識した。
27.大阪	吹田市職員労働組合	熊本地震では、横須賀に自衛隊空母艦上の(夜間も救急対応可能な)自衛隊ヘリコプターを積んで発災後すぐに熊本に向かった。しかし、能登地震の時にはドクターヘリは現地に直ぐに集まったが、熊本地震のような動きは無かった。ドクターヘリは、夕方以降の夜間に対応できない。夕方夜間対応なヘリが中々集まらなかった。(1月25日頃に聞いた)その話を思い出しました。公務労働者は、住民の方々の代弁者として働きが必須である。コロナの時も必死で少しでも住民の健康を守るために従事した。コロナでは、先進国最低のPCR検査、あべのマスクに300億円。予算編成、システムがおかしな組み立てな有事対策が進行中のため、それをカバーするには、どうすればよいのかと日ごろの不安を再確認しました。しかし、だからこそ、改めて、住民の方々と向き合い、その代弁者としての労働をつとめ、また、組合活動ふくめて、矜持をただして頑張りや、との示唆を受けました。感謝です。
00.中央団体	福祉保育労	前半では、能登半島の震災での医療などをめぐるひっ迫状況と、平時からの体制整備の必要性が浮き彫りになった。能登に戻ろうという声があがっている主体性にかかわる復興にむけて、前半の講義とあわせてよく理解できた。後半は、輪島市職員やコロナ禍の公德の保健師の時間外労働の異常性にふれたのは、労働組合の報告として非常に意義深く、考えさせられた。
29.奈良	ならコープ労組	現場の状況がとてもよく伝わりました。 思い出したくないこともあったかもしれませんが、報告くださり本当にありがとうございます。 コロナ禍での医療崩壊を受けてもなお、政府や地方自治体はそれを重く受け止めていなかったのだと感じました。 田中先生が、「平常時の最適化は、非常時に対応できずに破綻する」というようなことを仰っていたと思いますが、本当にその通りでありますし、これは医療だけではなく、行政はもちろん、社会的経済連帯の担い手として期待されている生協にも言えることだと思いました。 また、福祉避難所に入れなかった人は、というお話はとても大きな問題だと思いました。私の祖父は今、高齢者施設に入っており、自立歩行不可、嚥下障害、それに認知症がひどく、この前会いに行ったときは、「君はだれだね?」とっていました。 このような状態の祖父を、「家族でみて下さい」と言われても非常に困難であると思いました。 緊急時を想定した医療・福祉が必要だと切に感じましたので、奈良県医療福祉生協と協同福祉会の状況、奈良県の状況等を調べると共に、そういった声を上げている団体と連帯していけるように行動したいと思います。
25.滋賀	こびらい生協診療所	テレビでは石川県のことはほとんど報道しておらず、今日被災地の方の話を聞いて、こんなに復興が遅れているのかと知りました。

第1 講座特別報告(石川社保協・藤牧圭介氏、自治労連・山本民子氏)の感想

		<p>診療所だけではなく、病院と連携する重要性を感じました。滋賀県は民医連の病院がないため、震災時はどのように連携をとるのか疑問を感じました。</p> <p>保健師としての役割、看護師としての役割、そして病院の役割、診療所の役割と、それぞれ同じ役割ではないことを改めて知りました。</p> <p>保健師と診療所の役割は似ているように感じました。</p> <p>被災を経験したことがない私はどんな状況でなにが優先されるのか、日頃から意識したり準備しておくことなど、もっと具体的な取り組みを知りたいと思いました。</p>
27.大阪	淀協勤労者厚生協会 相川診療所	<p>自治体で働く山本保健師さんの話 石川民医連の藤牧さんの貴重な話ありがとうございます 自治体保健師災害時の業務に追われながらの命繋ぐ臨場感が伝わって来ました 医師不足から奥能登の公立病院 4 病院を統廃合が進む最中の馳知事の大阪万博に一億寄付の発言の背景が分かりました 大阪のコロナ禍の悲惨な状況思い出しました 災害が次々当然起こる昨今 命と生活を守る永く取り組めるいろんなネットワークも必要と思いました</p>
27.大阪	大阪府保険医協会	<p>藤牧さんと山本さんの報告では、ニュースでは知ることのなかった詳細を知ることができました。とはいえ、それでも全体の情報の中のごく一部であると思います。</p> <p>医師不足や公立病院の維持困難からの病院統合。全国的に同じような課題があり、その解決策として公立病院の統合や閉鎖となっています。</p> <p>震災で騒ぎ、コロナで騒ぎ、それなのに国や行政は効率化を目指す。誰のための政治なのかと悲しくなります。</p> <p>また、自治体職員の勤務時間には驚きました。ここにも病院と同じく、効率化からの人員削減が原因であるのと、これまでの事例をもとに、次に備えるということの準備不足からであると知れました。</p> <p>もしもの時に命を守るためにも、公的病院等に対する考え方の見直しや、普段から住民の生活実態を知ること、そのうえで万が一の場合の対策を考え備えることが大切だと感じました。</p>
33.岡山	水島協同病院	<p>地域のコミュニティを大切にしながら住民主体で復興に取り組むことの重要性を、講座や報告、ディスカッションを通じて学び取ることができました。発災直後の病床逼迫のようす、その後数ヶ月続く自治体職員の過酷な状況を聞き、たいへん驚きました。</p>
19.石川	石川県社保協	<p>被災住民の暮らしや声の実情をもう少し組み込めればよかったと思いました。</p> <p>自治体職員の過労は深刻だと思います。本来の「公共の福祉」を担えるような体制ではないことがよく分かります。ともに本来の公共を取り戻したいと思いました。</p>
40.福岡	社会医療法人親仁会	<p>石川県の現状を知ることができました。公的機関も人がいない状況でギリギリだということがわかりました。</p>
40.福岡	福岡医療団たらリハビリテーション病院	<p>行政も一生懸命仕事をしていることはわかりましたが、それでもまだまだ十分な生活が出来ない方が多くいると聞きます。これからも多くの自然災害が発生することは遅かれ早かれ確実なことです。避難のことだけではなく、その後の復興のこと、行政手続きやライフラインの復旧など、もっと重点的に整備をおこなう必要があると感じました。</p>
27.大阪	西淀病院	<p>現場の実際のお話を聞いて、知らなかったことも多かったです。災害が起こる度、厳しい現状を聞き、胸が痛みます。個々人の努力や地域の自治体の職員の働きだけでは限</p>

第1 講座特別報告(石川社保協・藤牧圭介氏、自治労連・山本民子氏)の感想

		界があります。政治の在り方を考え、制度の充実をしなければならないと思いました。
13.東京	東京民医連	お二人の貴重な話から震災から現在に至るまでの被災地の状況がよくわかりました。職員自身が被災していて大変な中、今できる事、今より一歩先にすすめるように日々頑張られている話に胸が熱くなりました。 様々な課題があげられていましたが、この教訓がしっかり活かせるような仕組みづくり、県や国への働きかけが重要になってくると感じました。
18.富山	富山民医連	石川社保協の報告のスタートで奥能登の医療構想での統廃合について1月1日に地方紙に掲載されるような状況ということをはじめてしまった。その中で、この震災で機能不全に陥ったことは必然で、コロナの教訓が生かされていないという典型的な地域の状況を知れた。改めて地域に対する活動は今後も必要だと感じている。 自治体職員の削減により、実際にその地域で行われていることは、外部へ委託されており、支援する職員事態が実際に何を行っているのかわからない、できない状況となっていることに驚いた。支援に入った他県の職員が実際に現地に入ってこのような言葉が出てくるような状況では、実際にこのような災害でも何もすすんでいかないのは当然だと感じた。日常の効率化は災害時には弱い、全体を見ても本当にそうだと感じる。改めて自治体側の状況を聞く経験はすくなく、大変貴重な経験が聞けた。
38.愛媛	愛媛民医連	各団体の取り組みや想いを聞くことができ非常に勇気づけられました。
36.徳島	徳島県社保協・徳島県民医連	日本では復興が遅いことを身につまされました。自治体職員、保健師、保健所、医療供給体制など、現政府の「効率化」政策が国民を危険にさらしていることに強く怒りを覚えます。 「有事」に国民のいのちを守る事ができる社会整備が国の役割です。
25.滋賀	滋賀民医連	藤牧氏の報告:被災住民に寄り添い要望を拾い上げる活動、それと並行して、命を守るために国や県に働きかける活動、両方に取り組まれている様子が伝わってきました。地域に民医連と共同組織が存在することの意義を確信できる報告でした。 山本氏の報告:能登地震・コロナ禍での自治体職員の苦難が伝わってきました。このような実態が報道されていないのは問題だと感じます。教訓をまったく省みない政策をストップさせ、社会保障とその具体的実践を担う人々を中心におく政治に転換することが切実に求められていると思いました。
千葉	松戸社保協	お二人の話を伺いながら、生まれ育ったちで生き続けたいと主張してもいいんだとスッキリしました。災害だけでなく、いまバス、鉄路撤退が仕方ない(居住している世帯が少ない上に高齢者が多い)風潮が広がっています。その問題を含め人権、生命を考えていきたいです。「みんなで能登に戻ろう」には泣けてきました。
沖縄	沖縄民医連にじの会	石川社保協:被災から8ヶ月立っても復興が進まない状況がわかった。国、県が人間がその人らしく生活していけるよう地域の医療・介護・福祉を重要視した政策を取るべき。まさにそうだと感じました。 自治労連:被災地の職員の増減率はコロナ禍と同じで看護師や保健師が大幅に減り、また超勤等が増え、日常業務が維持できない状況となったことが数字で理解できた。くには DPC など職員を減らす方向でしか話をしないがそういう場合に備えて逆に職員を増やす必要があるとコロナ禍など際に感じた。国は医療や介護福祉にもっとお金や力を

第1 講座特別報告(石川社保協・藤牧圭介氏、自治労連・山本民子氏)の感想

		費やすべきと思う。
大阪	大阪府保険医協会	石川の避難所のレベルが、30年前の阪神淡路と何も変わっていないことに驚いた。保健師の数が平時から削減されており、コロナ禍や今回の震災など非常時に保健・医療が機能不全に陥る現状を知り、行政のそうした姿勢は非常に問題だと思った。
埼玉	医療生協さいたま	能登の復興については、8カ月たった今も問題山積ですね。自治労連の山本さんから、行政のご苦勞がよく伝わってきました。
徳島	徳島県民医連	大規模な災害の時、医療・介護従事者や自治体職員は自らも被災しながら住民の避難や復興に携わらなければならず、ご苦勞は想像を絶するとも思う。これまで数多くの自然災害を経験してきたのに、被災者や現場の職員や支援者に不自由を強いる自助・共助ばかりで、国民の生命財産を守るべき国が何も学んでいない、蓄積していない事怒りを覚える。
徳島	徳島県民医連	テレビの話よりも遅い復旧なので驚きました。水の大切さやトイレの重要性など、色々と考えさせられた報告だったように思います。
兵庫	兵庫社保協	被災地能登の現状を石川社保協の藤牧圭介氏、災害と自治体労働者の立場から自治労連の山本民子氏が特別報告をし、自治体の役割や住民の運動を交流でき、田中教授の後半の具体的な住民の話とつながってよかった。
愛媛	愛媛県民医連	能登半島地震発生からの時系列データや当事者の切実な訴えに共感した。災害を通して、地方が切り捨てられてしまう国の政策の在り方に憤りを感じた。愛媛県民医連でも医療従事者の支援を続けてきたが、現地での石川県民医連の支援活動には敬意と感謝しかない。

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

00.中央団体	全商連	①「対話」について議論されたが、本当にしづらい社会であると思う。また、TPOによってやりようは変わってくるので、それはそれとして手法について探求が必要だと思った。②「ケア」「コモン」という軸が示されたが、まだ抽象的な議論の枠を出ず、どう実践するか、という点についてはまだイメージがわからない。とりわけコモンは、どこまで行っても抽象的な概念(呼びかけに近い)の域を出ないので、単品で目指そうとしても共感を呼びにくいような印象。
40.福岡	親仁会	少し内容が難しく、理解できない部分が多くありましたが、今の社会を運動によって変えていくことが求められているんだと思います。個人所得を増やしていかないと、苦しくなる一方で生きていくことが難しくなる。
36.徳島	徳島健生病院	これからの政治は対話を重視して国民とともにしっかりと政策を考え国民全体で取り組んでいかなければいけないと思いました。インバウンドにより海外からお金が増えているが一時的な効果にしかならず、国民の所得を上げないと安定することはできないと感じました。これからはもっと国民ファーストで政府も考えるべきだと思いました。ケアについてケアする側される側ともにケアすることの重要性、しっかりと全体を見たらうでしっかりと考えて行動する、相手のニーズを応答することの大切さを学ぶことができました。
38.愛媛	愛媛生協病院	データから経済の悪化がよく分かりました。対話とケアの関連性について考えさせられました。事前質問などの受付があれば、議論がよりスムーズになったのではないかと思います。
40.福岡	大牟田市社保協	富田先生の痛烈な国政批判に始まり、データに基づく桜田先生の大阪府政の実状、そしてケアやフェミニズムからみた政治やケアに関する社会保障という身近な話の流れが分かりやすく面白かったです。コモン理念や正義の倫理、ケアの倫理について深く考えさせられ、そそれを社会保障につなげる為には「対話」が必要だー。「ニーズに応答することから社会や政治がはじまる」には感銘を受けました。今月には地域に出向いてくらしに関するアンケートを行なう予定でおりますので、これらの学びをつなげたいと思います。
27.大阪	茨木居宅	ケア労働の社会的評価はこれからも上がらない。ご主人がどこかの部長の奥様に馬鹿にされて生きています。給料が上がり社会的評価が上がらない限り、金銭で評価される世の中です。
34.広島	広島民医連	ケア、コモンを考える中で、対話をし、自分たちの政治的な力をつけていく。自分の考えが伝わらない理解してもらえないことが多く途中で対話をあきらめてしまう事が大半ですが、自己内対話を実践してみようと思います。
00.中央団体	福祉保育労	「対話」というキーワードは、労働組合運動においても強調されています。福祉保育労では、数年前から「聴きとる対話」という表現をしています。小松さんが閉会あいさつで「まずは相手が話したいことの背景を聴かせてもらうことに気をつけている」と言われていたことに共通していると感じます。 富田先生が話されていた「ケアを狭くとらえないで、誰でもが関わるもの、コモンとして正当に評価し、社会の中に位置づけること」を、福祉労働に関わる一員としてめざしていきたいと思います。 まだまだ家父長制が色濃く残っている家庭がある中で、子どもたちがどんな地域社会で育ち、人格形成をしていくのかで、この国の未来社会が決まると考えています。元橋先生

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

		<p>が提示した「ケアの倫理」が特別なことではなく、あたり前に存在する地域をつくるために、シンママ応援団や子ども食堂のような具体的な活動を地域で広めていくことに、少しでも関わっていこうと思えた講座でした。</p>
34.広島	広島民医連	<p>世代間分断とジェンダー間の分断を生んだ都知事選では、今後10年の日本の政治に危険な影響を及ぼしたのでは？と提起されましたが、まさにわたしも肌で感じる部分があります。関係ない広島県民でさえ、今回の都知事選には注目した人も多かったはずですし、まさに夫がものすごく影響されました(あまり選挙には興味を示さなかった人間で、40代男性)。日本の政治を動かす新しい風も必要ですが、少々極端ではないか？過激的ではないか？と思えることもあって、なんだか危険だなあと感じます。また、家父長制度の問題では、まだまだ日本はこの問題を払拭するには時間がかかりそうだと感じさせられました。まず、家父長制度を知る、知って何が問題なのか、自分ごととして捉えることから始めなければならぬし、過去の自分の経験を思い返したり、また、追体験したときに今の自分ならどう行動するか、言動するか、過去の経験を塗り替えながら向き合っていきたいと思います。コモンとケアの話では、コモンとケアは社会的共通資本、社会的共同手段として扱われるべきだとありましたが、みんなが共有していく上で、そのために何が必要なのか、具体的なイメージで社会保障や政治に結びついていないことを学びました。その背景には、ケアは家族主義、つまりは、女、妻、母がするものだと社会に根強くある。誰もがケア(する、される)に関わっているのに、ケアを担っている人が政治や社会から外されているイメージ、周縁化されているように思います。周縁化されてしまって、ケアを担う人の声が届かない、当事者なしにケアというものが考えられているんじゃないか？と思いました。</p>
00.中央団体	全日本民医連	<p>国政・大阪(近畿)の現状を概観した上で、自ら説明しようとしてもなかなか説明できない”ケア”の概念を学ぶ事ができる貴重な機会となった。ジェンダーや経済的事情、人種などどんな立場の人においても「人権」が保障されるような社会的な仕組みの確立と個々人の理解が浸透する事が、”ケア”の到達である、というのが現時点での自分の理解の到達である(これが正解かはわからないが)。しかし、”ケア”の具体化や個々人への浸透させていく役割が、社保協の活動にあるという事は腑に落ちた。”ケア”というあらたな概念の浸透と確立という壮大な事業に携わっていく事に今後の活動のモチベーションを見出した。大変ですけどね(笑)</p>
27.大阪	吹田市職員労働組合	<p>「包摂」という言葉は初めてで、まだ説明できないですが、日々の(疲れるかもしれない?)対話、「相手の方に興味を持ち、教えてもらう」ような対話をたのしむような人になりたいな、と思いました。「#万博中止して能登復興に予算をまわせ」の言葉、正しいと私は思うけど拡がらない。中小企業の調査を東大阪市長尾市長さん時代が最初で最後だった。この高校に行けてよかった「西成高校」「高槻南高校」「箕面東高校」「島本高校」多くの方々の頑張りで素晴らしい実践があった高校の数々が閉校された。ある高校は「小中学校時代に不登校だった自分が、初めて高校生活を楽しんだ！自信もてた！」「わかる授業の取組を行い、中途退学者が減った！」等の実績ある高校がつぶされました。あらゆるところで、社会保障制度システムが弱るよう進行しているのかしら。これからも仕事で、学んで、そして組合活動でも文章化含めて、色々な方々とコミュニケーションできるようにつとめようと考えました。</p>

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

<p>00.中央団体</p>	<p>福祉保育労</p>	<p>安倍内閣と岸田内閣では、年代別の支持状況が大きく異なることに私も関心を持っていたのでタイムリーだった。維新への期待は、古い政治への批判と新しさへの模索であるはずなので、支持する人たちを全否定せず、その思いも受けとめながら、対話をすすめたい。従来の運動では、どっちが正しいか白黒をはっきりさせる傾向ばかりだったが、ケアの倫理という視点は非常に重要だと気づかされた。対話がキーワードだったが、そもそも運動体のなかで率直な論議・対話ができているかが問われるべき。大阪府職労の小松さんの実践事例も出されていたが、一方的な会議になっていないか自戒と検証、模索が必要だと思う。私も2年ほど前から心理的安全性に注目して、所属団体でも心理的安全性を高めるための学習を広げつつ、試行錯誤をしている。</p>
<p>29.奈良</p>	<p>ならコープ労組</p>	<p>・富田先生のお話 私は今年で 33 歳になりましたが、若者世代が安倍政権を支持していたことには驚きました。 ですが、石丸元市長や維新の会への支持率が高いのは実感しています。 ガーシーこと、東谷元議員が当選したことも、恐らく同じような理由だと思いますが、若者は「自分の代わりに」、ガツンと言ってくれる人を求めているのだと思います。 世代間分断も、少子高齢化が進み、その負担を若者が追わなければならないと思われる今の政策を変えてくれ「そんな人」を支持した結果ではないかと思います。 要するに若者は、「自分の代わりに政策を変えてくれそうに見える人」を支持しているのだと思います。 しかし、私はそれはまやかしであり、そうやって選ばれて議員になったりした人は、ドバイに逃げるのだと思っています。 また、ミソジニーなどのジェンダーの話は、日本においては「男子たるもの・女子たるもの」といった教育の歴史があるので、世界基準に至るには相当な時間を要すると思います。 対外的な体裁を整えるために、「意志に反して管理職にされた女性」がいらっしゃることも聞いています。「男性女性である前に、同じ人間である」と考えることが大切なんだろうなと思いました。</p> <p>・桜田先生のお話 維新の、万博・カジノは、大阪の経済を発展させるためのイベントである、というのはとても驚きました。また、それを実現させるために、国民から徴収した税金を何兆円も使い、電通などを取り込んで、維新グループで動いていることも驚き、資本主義的企業の経営と同じような動きなんだなと思いました。 団体交渉では、「経営が良くなれば給料上げます」といわれますが、それと同じ考えなんだなと思いました。 「搾取をやめる」それだけでいいはずなのに、、、 それと、万博関連事業のお話で、道路のお話がありましたが、ずっと工事が止まっていた、京都・奈良・和歌山をつなぐ、京奈和道という道路が、維新の山下知事によって直ぐくらいのタイミングで再開されました。 もしかするとこれも万博関連事業なのか？と思いましたので、調べてみようと思います。</p> <p>・元橋先生のお話</p>

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

		<p>生協と非常に関わりの深いお話であると感じました。</p> <p>生協は、いわゆる「主婦」の組織でありました。</p> <p>生協では昔、「家庭会」という組織を女性たちが作り、家庭内のことだけでなく、政治についてや、女性の権利などの話し合いが行われていたそうです。</p> <p>現代ではそのほとんどが失われてしまったように思いますが、それでもその流れはまだ残っていますし、加入されている組合員は、ほぼ全員女性です。</p> <p>また個人的にも、私の生まれ育った地域は「家父長制」がとても色濃く残る地域であり、両親の離婚の原因もそこにありまして、その地域でケアをされている女性の方々の苦悩を聞く機会もありますので、とても興味深いお話でした。</p> <p>人間と人間がケアをし合える社会をめざし、生協の組合員と話し合い、私も行動していきたいと思います。</p> <p>全体を通して「コモン」のお話が出ていました。</p> <p>生協を日本に広めた賀川豊彦という人は、その「コモン」を各地域ごとに確立させ、行政に頼らない、生産手段をもった住民による地方自治を目指して、生協をはじめとした協同組合の普及に人生を捧げたと学び及んでいます。</p> <p>生協で働く者として、コモンについてもっと学びを深めて、その必要性と生協の可能性を広めていきたいなと思いました。</p>
25.滋賀	こびらい生協 診療所	<p>維新がなぜ人気なのか、東京都知事選挙で有名になった石丸さんについて知りたいと思っていてたところ、富田先生と桜田先生の話聞いて理解しました。</p> <p>元橋先生の対話では、対話することの難しさ、ジレンマなど、すごく共感し改めて対話することの重要性を学びました。</p>
27.大阪	淀協勤労者厚生協会 相川診療所	<p>富田先生と桜田先生の話楽しみにしてました 維新 万博 カジノ切っても切り離せない 淀川花火大会の日公園でシール投票持参し話しかけ行動しました 万博工事入ってるから反対言われへんとか 胡散臭い万博と思うけど工事進んでるのに 途中で放置されたら跡地はどうなる? 私達の税金又使われるどっちもかなわんと 沢山の人が万博は怪しいと思いつけるのがわかりました 今日の話で法人2税の半減への落ち込みを埋めるためと知り 様々な SNS や1人スタンディング等新しい取り組みに目を奪われてました でもやっぱり語り合いが心に響くんですね やる事沢山ありますが これからも出来る事をやって行きます</p>
27.大阪	大阪府保険医協会	<p>今の政治の現状、そして、今後暮らしやすい社会のためにはケア民主主義という考え方を取り入れるとよいのだと思いました。</p> <p>富田先生の話から今の現状を知り、桜田先生の話から維新政治と関西万博についての新しい内情を知り、正直なところ驚きもありました。知らないことの怖さを感じます。</p> <p>どうしてこのような残念な方へ進んでいくのだろうか、良い方へと向いてもらうためにはどうすれば良いのだろうかと考えているところへ元橋先生の話となりました。</p> <p>「人を生かし、より根本的に社会を支えているのはケアの営み。弱い立場にある人の声を聞き、ニーズに応答することから、社会や政治は始まる」という言葉を聞き、そして「母的思</p>

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

		<p>考」の話を聞いて、これまでの自分の経験を交えながら考えました。</p> <p>母親は、常に自分ではない相手(夫であったり、子どもであったり)に対して、どうしてあげたら幸せになるだろうか?と考えている。あれこれやってみて、失敗もするけれど、時に意見が合わず、苦しみながらもがきながら・・・それでもとにかく幸せになってもらおうと行動する。</p> <p>これが「平和」の構築なのであれば、この母親的思考で政治に持ち込めば良い社会に向かえるのではと思いました。だからといって、男性的思考がダメなのではなく、どちらも大事な考え方なので、偏りなく議論し合う。つまり包摂の政治が大切なのだと。</p> <p>維新政治は、中小企業を中心という政治と言いながら、中小企業への聞き取りが1度きりと聞き驚きました。大切な“対話”ができていません。</p> <p>子どもたちは、家庭は小さな社会だと学びます。小さくても大きくても考え方は同じ。逆発想で国の政治に当てはめると、政治家が親で国民が子どもたち。こう考えると、今の政治はかなり危険だと感じました。</p>
33.岡山	水島協同病院	<p>自公政治への対抗として東京都議選で現れた石丸現象や、弱者へのむき出しの憎悪を示す維新勢力など世代間分断とミソジニーの台頭について、たいへんな驚きをもって聞き入りました。世代間・ジェンダー間の分断ではなく包摂の政治や政策を進めていくことの大切さを認識しました。</p> <p>また、元橋利恵先生のお話では、他者への関心、配慮、責任、いかに傷つきを減らすかといった「ケアの倫理」は生まれつき備わるのではなく、家庭や人間関係への責任や期待、人格形成のなかで身に着けていくものだというお話しがとても印象に残りました。</p> <p>さらに、討論のなかで、元橋利恵先生の「意見や思想のちがう人びとと対話するのはとても勇気の要ることだけど、これを乗り越えて対話をするのが民主主義を築くもになると感じている」という発言や、富田宏治先生の「ひとり街宣も大事だけど、やっぱり対話が大事。路地裏街宣やシール投票などで対話を広げていきましょう」というよびかけがとても印象に残りました。</p>
19.石川	石川県社保協	<p>とても興味深く聴講しました。「対話」がテーマになりましたが、私たちの弱点でもあると日々痛感していたので、見事に言い当てられている気がして歯がゆい思いでした。教育の問題も確かに大きいと思いながらも、では自分自身は家庭では?職場では?友人とは?と自問する機会にもなりました。</p>
40.福岡	社会医療法人親仁会	<p>対話の大切さと難しさ、しんどさを共有できたと思います。全世界が分断に向かっており、直近ではドイツも右派政党が支持を集めています。分断ではなく包摂の政治への転換はしんどく険しい道だと思いました。元橋先生がおっしゃっていた「しんどさ」がとても印象的でした。</p>
40.福岡	福岡医療団たたらリハビリテーション病院	<p>ケアが弱い立場にある女性に押しつけられてきたことは私自身も業務経験から感じますが(社会福祉士として関わる際、主介護者やキーパーソンは妻、娘といった女性が多い)、これからは女性、ではなく社会全体で支えることが必要であると改めて感じました。</p>

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

13.東京	東京民医連	<p>現自民党政治の腹黒さと自分さえ生き延びればよいというような無責任な政治家が多いということに憤りを感じました。知れば知るほど今のあくどい政治にがっかりです。ケアというのは言語化することが非常に難しい。人が生まれてから死ぬまで必要不可欠で避けては通れない問題であり、ケアする人もされる人も大切にされる社会を実現させるためには政治転換が一番なのだと思いますが、なかなか厳しい現実。</p> <p>まずは身近なところで対話をし輪を広げて行けたらと思いました。</p>
18.富山	富山民医連	<p>岩盤保守層の岸田離れが今の現状で、そのきっかけが LGBTQ 法案ということに初めて気づくことができた。弱者へのむき出しの憎悪という言葉はほんとに恐ろしいと感じている。力の持つものが弱いものを作り出し、追い込むことで自分の権利、教官によるポジションを得る恐ろしさ。</p> <p>大阪の地域における産業構造は大変良かった。国の政策と地場の活性化によって変わってくる意識は大切。</p> <p>元橋先生の紹介は最後まで聞きたかった。一番印象的だったのは「正義の倫理」と「ケアの倫理」を相対的に示すことによりケアの倫理がどのようなものなのかわかりやすかった。私自身も日本における家父長制がこのように、ジェンダーやケアの軽視の根本的なものだと思っており、今後誰もがケアを行えるように男女の賃金格差をまずはなくすことが必要だと思っている。そこからスタートで、男性優位の社会、見た目だけの女性参画ではなく、中身が重要、子育て中のパート職員はほぼ女性の状況が変わる時だと思っている。</p> <p>対話の大変さと、重要性を感じる事ができた。学問的には認識しても対話がなければ広がっていかない事実を受け止めることができた。</p>
38.愛媛	愛媛民医連	<p>「寛容性を失いつつある社会」の中で1人1人がどう動くのか。長男が今年大学入学。保育園の頃から保護者会やPTAをずっと手伝ってきました。年々、保護者も学校もお互いに寛容性を失い、ギスギスしていくのを何とかしたいと思いながら何もできませんでした。今、小学校は少しでも変なことをしたら、スグ発達障害のレッテルを貼られます。本当にこんな環境で子どもを育てることなんか誰も望んでいないのに。のに、『対話』したくても、自分の意見は言っても人の意見は全く聞かない人が増えてきました。SNSの影響でしょうか。それでもあきらめずに、『対話』を大事に行動していきたいです。</p>
36.徳島	徳島県社保協・徳島県民医連	<p>とてもいい内容でした。富田先生の、青年層の自民党ばなれが起きているというお話には、自民党の終焉が近いとの確信(安心)を持ってました。また、世代分断だけでなく、男女分断(ミソジニー)を意識的に行っているという分析は新しい知見でした。「時代遅れの政治家の戯言」位にしか認識してい真線でした。東京都議選が今後の政治の縮図とのお話には納得。</p> <p>元橋先生のケアの倫理は、事例もあげながらよくわかるお話でした。正義の倫理とケアの倫理。公的領域と私的領域を明確に分けて考える新自由主義。感情と切り離されない思考。異なる他者と共存し、葛藤を抱える事ができる力＝ケアの倫理。</p> <p>キーワードとして「対話」がクローズアップされましたが、寺内さんの「聞くことにつきる」のコトバには納得しました。結論を急ぐあまり説得してしまいがちな日常の対応を改めなくてはなりません。</p>
27.大阪	大阪民医連	<p>そもそも今の政権は、ケアの意味すら考えようとしません。だから家族内で何とかしなさいと、</p>

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

		非現実的なことを堂々と言えると、目からうろこでした。
47.沖縄	沖縄民医連 社会福祉法人 沖縄にじの会 介護老人保健 施設かりゆしの 里	率直な感想として。 政権が変わる度に国民は期待し裏切られるを繰り返してきた結果、強硬派の政党が現れると何故かヒーロー(革命集団)扱いしてしまう世の中。ネガティブマインドから冷静な判断が出来なくなっていると感じる。 その辺の軍事大国と同じ状態。 沖縄県民として、次世代を担う子供達に情勢が不安定であっても不屈の心で信念を貫き通すよう伝えていきたい。
25.滋賀	滋賀民医連	若い世代の中での政権支持率低下が顕著だということに納得しました。非正規雇用の増加や高すぎる学費などにより若者が将来の展望を持ちにくくなっていることが背景にあると考えます。展望を持たなくなっている人たちにわかりやすく対案を示していくためには、ディスカッションの中でもあったように対話がとても重要だと再認識できました。 講師が言われたように、都知事選のひとり街宣は主張を広げる点では確かに不十分ですが、ひどすぎる政治に対してやむにやまれず声をあげ始めた人があれだけたくさんいたということは大きな希望だと思います。都知事選での現象を情勢の前向きな変化として捉えていきたいと思っています。 元橋先生の「ケアは大切だと言われるが感謝だけで終わらせられることが多い」という指摘にとても共感しました。今の社会は、家庭内でもケア労働の場でも、ケアを担う人の献身・奉仕・自己犠牲のうえに成り立っていると感じます。ディスカッションで何度も出てきた「誰もがケアをする/される存在だとの認識のもとに、ケアを政治の中心に位置づける」という提起を具体的にイメージできるよう、これから学びを深めていきたいです。 女性が家庭でのケア労働と社会参加を両立させるのは大変難しい課題だし、簡単には解決しないと感じます。家庭内のことは個人的なことと思われ声に出せなくなっている人たちの声を拾い上げ、要求につなげるためにも、組合や組織のなかでの対話と相互理解が大切だと考えます。
千葉	松戸社保協	富田、桜田両氏の内容は的確でわかりやすく、維新の政治により何がもたらされたか整理することができました。 元橋氏の「ケア」が最近病院の親しい方に勧められ岡野八代「ケアの倫理」を読み始めたばかりですが、議論中で何回か「ケア」「コモン」に抽象的言葉にすぐに概念をつきまとうわけではなく浸透していないため、どうしてか心地よく入らない面もあるかと思います。医療・介護・保育いずれも社会的に必要故に公的なもの、これを大事に根底にした政治実現を志向したいです。
埼玉	医療生協さいたま	分断ではなく包摂という、富田先生のテーマが桜田先生と元橋先生のお話でも共通したテーマだと感じました。桜田先生からは、大阪万博でのヘルスケアパビリオンについての話が印象的でした。ヘルスケアについては、誰もが当たり前のように関心事で、その市場化について、私たちはリテラシーをもって対応しないとイケないと思うばかりです。社会保障と医療や福祉政策は国民が主体になって企業や国を監視していかないといけないですね。
兵庫	兵庫社保協	関西学院大学富田宏治教授の話から、夫婦別姓、LGBT 法でなんでこんなにもめるの

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

		<p>か。やりたい奴にはやらせておけばええ話しやんけ。と思っていたが、自民党支持層のの半分を占める 1,000 万票の岩盤保守層(右翼層)にとって家父長制度、天皇制、憲法改憲は思想的に譲れない内容であると。自民党の裏切りととらえている。合わせて経済悪化から 10 代 20 代の自民党離れが進んでいる。自民党の危機的状況。</p> <p>東京都知事選の石丸現象の分析もあった。石丸支持者は男が多く、石丸自身は迷惑系ユーチューバーでしかない。これを維新が取り込んで復帰をめざしている。維新は「8割がたの女はハエのようなもん。女が完全にトチ狂って本能に支配されてクルクルパーにならないと子どもを産もうなんて思わない」とかいうやつがいる政党だ。ここにもジェンダーがせめぎ合いの選択肢に上がってくる背景がわかる。立憲民主党の演説だったようだが、「強い男に追従して地位を気付いてきた小池百合子と自己主張して女性の地位を向上させる蓮舫とどちらが勝つかは、自分の娘が女性としてどう生きるかを示すのに必要な選択だ」との演説は、響く主張だった。</p> <p>桜田教授は大阪維新政治が今の日本の政治を表しているとし、会社がもうからないと自分たちの給料も上がらない。公共事業で日本の経済は回っているの認識は根強くあって、これを共同の社会資本の充実でくらしは楽になると認識が変わるには、ハードルが高いとの話も、実感できる。</p> <p>元橋氏の提起でケアがどう考えられていて、どう変えていくべきで、どれだけその転換が困難かがわかるような気がした。</p>
<p>京都</p>	<p>新日本婦人の会京都府本部</p>	<p>2 日目のみ参加しました。午前の部は大変刺激的内容でした。富田先生のお話はいつ聞いても最新の情報とゆるがない提起(「対話」が大事ということ)で、運動の方向性に確信がもてます。桜田先生のお話からは、普段大阪で活動していない私にも、大阪の実態(維新政治によって今、どんな状態なのか)などがよく分かりました。元橋先生のお話はジェンダーとケアの関係性だと思いますが、書籍の紹介も含まれており「読んでみたい、読むことで私ももっと深く考えるきっかけがもらえそう」だと思えました。司会の方の進め方も上手かったと思います。「コモン」と「ケア」がこれからの時代のキーワードで、それをどのように日本社会に広めたり深めていけるかが鍵であるということですが、これを、今からみんなでやっていくことにわくわくします。私も、子どものころからの友人などに久しぶりに会うと、大学生くらいの年齢のときは全く政治に関心のなかった人が、やはり人生経験を重ねる中で、政治に興味を持ちだしている、ということが増えて来ました。政治に興味があいかわらず)ない人でも、子育ての話から対話が続くことも多く、やはりその相手にあった話し方というのは本当に大事だと痛感しています。もちろん、どのようにしてもなかなか政治の話(というか生活と政治はつながっているんだよーということ)に至らない対話もまだまだ多く、悩むこともしばしばです。富田先生が、丸山眞男氏の言葉「自分と対話できない人が他人としても…まず自分自身との対話が必要」という趣旨の言葉を引用してくださいましたが、その通りかなと思います。なかなか日常の中で、自分と対話する時間が取れない現代人ですが、やはり意識していくことが大事かなと。</p>
<p>福岡</p>	<p>福岡県社会保障推進協議会</p>	<p>富田先生の講演では、維新政治の本質をつかむことができ、大変興味深い内容でした。世代間分断とジェンダー分断にどう立ち向かうかというところでは、分断ではなく包摂の政治が必要とのことで、「コモン」「ケア」の言葉が出てきました。この「コモン」「ケア」というも</p>

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

		のを、包摂の政治の中で、どう具体化していくのか、私たちは学習を深め、実践を通して、多くの人たちに浸透させていく必要があると感じました。パネルディスカッションを通して、「対話」の重要性が語られましたが、自分とは考えの違う人たちに「対話」を通して「対峙」する勇気を持つことが大切だと感じました。
愛媛	愛媛民医連	大阪の状況から見た政治・経済の危機と対話の大切さについて、またこれまで政治の中で無視されてきた「ケア」をどのように評価し政治に生かしていくか、民医連の今期方針にも掲げられている「ケアの倫理」について深められた。対立を煽る政党や政治家が増え、社会は寛容性を失いつつある中だからこそ『対話』による連帯が必要、まずは『傾聴』から。
千葉		ケアの倫理に対する自分の理解が届かない事の引け目がありました。しかし、なかなか難しい内容であることをパネラーの中で議論されていたので、少しほっとしました。感想的にこのケアの倫理に関して色んな文脈の中で部分的に理解できたことを、散漫になりますがまとめたいと思います。ケア分野の大学(福祉大学)や医療や看護、介護などケア労働に関わって来たので到底無関係とは思いませんでした。本当に端的に述べると、ケア労働については特に日本では階級性のある言葉として捉えています。国家構想(戦争政策)の中で家父長制度を進めることやケア労働を社会的低位に保つことは、一つは企業が例えば女性労働を安価に雇えることと、さらに国家(天皇制)護持の為に社会保障の概念の創出で国家転覆や体制選択の思想や(社会主義、共産主義者)人間の抑制も可能にしたのではないかと、というのが私の勝手な考えです。現在では旧統一教会との(体制側の)思想的な結合により、さらにその思想が「みえる化」されてきました。今回の学びでそれをさらに深堀することとなりました。脈々と続く歴史の中で、「お金の為ではない」と言う福祉や介護労働の賃金が低く、そして「白衣の天使」と言う言葉で奉仕の精神を強要され、そして「女性(労働)」と言うジェンダー問題として位置付けられたと思いましたが、「ケアの倫理」と言う言葉の出現により一番は解釈としての問題ではなくて、社会変革の問題としてあることにその思想の存在意義があることも領けました。一番理解しやすかったのは、都知事選の時の立憲民主党議員の演説内容でした。小池都知事が強い男に寄り添い声を上げない生き方か、蓮舫候補の様におかしいことにはモノ言う女性になるのか…。本当にケアの倫理を理解する上で端的で分断と包摂の文脈の中で、「対話」の重要性も議論されました。一人スタンディングの流れの中で対話の不足を仰られていたかと思いますが、これまた極めて個人的な意見ですが、一人スタンディングに関してはその限りにおいては、選挙参加、政治参加と言う意義の中で個人でも可能な参加がある、と言う民主主義の側面で積極的な行動であると私は捉えています。ただ、ケア倫理の議論を進める文脈の中で、対話の重要性を議論されていたので、それに置いての「文句」は皆無です。広義の対話の大切さの議論の中では対話はおろか、声を上げる事すら困難な人々が存在している事実を認識します。青年たちの議論で頻出していたアウトリーチと言う言葉と共にあったのはアドボカシーと言う言葉。代弁者とか伴走車と言う意味合いだったと思います。声の出せぬ者の声なき声(言葉)にこそ、社会的矛盾が内包されているのなら、やはりそれへのアプローチ(アウトリーチ)と代弁(アドボカシー)が求められると思いました。自民党政治と大阪の維新政治と万博という情勢論とケア倫理という一見ばらばらに見える講義。しか

第2講座 パネルディスカッション「政治と社会保障」の感想

		し、議論後の対話議論のプロセスの中でそれぞれの内容が昇華していき、心が揺さぶられる学びとなりました。ありがとうございました。
--	--	--

第3講座 シンポジウム 「若者とともに考える社会保障の未来」の感想

00. 中央 団体	全商連	自分で思ったことを原点に、さまざまな取り組みを行う団体が多数、あるものだと、改めて思った。やりたいことをやろうと思えば、案外できる。
40.福岡	親仁会	若者の取り組みには元気をもらうことができますと思います。 こんなに志のある人がいて、いい未来になることを期待したいと感じました。
36.徳島	徳島健生病院	各団体の対談を聞いて、若者はあまり災害や防災について関心が薄いのかなと感じていましたが、まったくそんなことはなく、地域住民とのコミュニケーションの大切さや繋がりの重要性を熱く語っていてすごく関心しました。ただでさえ行動を起こすことがなかなかできない中でたくさんのボランティア活動を行って支援を行っていることが勇気ある行動だなと思いました。これからの活動を行う上で大事なのは気持ちを強く持つこと、世代が責任を持ち変えていくこと、もっと多くの人を関わり出合いを大事にすること、行政の取り組みを誰でも知るための情報共有の大切さ、これらの思いが行動への原動力となってより良い社会保障に繋がっていくのではないかと希望と期待をすごく感じました。
38.愛媛	愛媛生協病院	長友先生が上手に進行されていて、多角的なお話が聞けたので良かったです。大学生の方皆さんしっかりされていて、これからの社会に希望が持てました。
40.福岡	大牟田市社保協	「何ができるか」よりも「まず行く」「まずやる」という意思の強さと行動力に平伏します。シェアリンク茂木の木曾さんの「困ったことを困ったと言えない社会」から見た貧困とアウトリーチの大切さを説く話には感銘を受け、午前ディスカッションの「対話」の重要性を改めて感じました。途中からEテレの番組を見ているような感覚になりました。20代の方々と接する機会も少なくなっており、貴重な時間でした。改善されない社会保障制度の中で眉間にしわを寄せる日常ですが、明るい未来を想像したくなりました。
27.大阪	茨木居宅	みなさん若者が若者を育てる活動をされており良いと思います。
34.広島	広島民医連	手段は様々ですが、対話を重視しているところは共通していると感じました。自分が住んでいる地域で、対話できる人達を増やしていくことで、住みやすい地域になってそこで安心して暮らせるようになって感じました。
00. 中央 団体	福祉保育労	<p>パネリストのみなさん個々の背景を聴かせてもらって、それぞれの活動の話がよりリアルに迫ってくるなと感じました。</p> <p>関西学院大学の方が最後に話されていた、「行政がもっと制度・施策を住民にアピールすべきではないか」、「そうしたアピール・周知活動をするボランティア団体に助成してはどうか」というのは、申請主義になっている日本の社会保障・社会福祉の弱点をズバリ指摘していて、まさにその通り！です。現地に行ったからこそ、大学時代にそうした問題意識を持てたのだし、大切な財産になったのかなと思います。</p> <p>木曾さんの「(対話ができる機会や場の)数を増やして支援が必要な人をみつける」話は、チャットにも書きましたが「選択と集中」の対抗軸だと考えました。「ムダを省く」という新自由主義の発想では、選択肢を見つけるということは考慮されていなくて、あらかじめ儲かるであろうターゲットが選択肢として決められているのだと思います。</p> <p>子ども食堂にやってくる子どものうち支援を必要としているのは1割だが、残りの9割も今は支援が必要でないだけだという話でした。極論ですが、一人の支援が必要な子どもが見つかるのなら、数を増やすことはムダではないと思います。声を上げることが困難な人を見つける活動に必要な経費を含め、社会保障・社会福祉に必要な予算は、この分野</p>

第3講座 シンポジウム 「若者とともを考える社会保障の未来」の感想

		に効率化を押しつけて自助努力で用意させるのではなく、利潤を上げることができる他産業からの再分配が必要です。そのことを当然だと思える人が増えていくように、今後も労働運動という分野で活動していこうと思いました。
34.広島	広島民医連	シェアリンク茨木さんの取りくみで印象的だったのは、仲良しの他人を増やす、互助共助を生み出していこうということ。シェアハウスやしゅくだいカフェに共通しているのが、「ここにいてなんでも話していいよ、あなたを尊重します、時にぶつかることがあっても安心して意見していいよ」というメッセージ性があること。ここに集まる誰しもに心理的安全性が担保されていて、信頼できる対人関係を構築できる場だと感じました。社会保障の拡充にも、誰しもが安心して対話できる心理的安全性が保たれている環境が必要だし、安心して対話できることは心が健全であることにつながります。そういう土台があってこそ、人を信頼して繋がれるし、その小さなつながりから大きな動きへと変えていけるのだと学ぶことができました。
00. 中央 団体	全日本民医連	様々な若者中心に構成される団体の実践報告は興味深かった。共通しているのは、現場に入り込んでそのニーズをとらえ、それに応えていく活動をしている事だと思った。若者がそういった活動に取り組んでいる事はそれ自体に価値が上乘せられると思うので、年配者としては、そういった活動は援助と共同をしつつ、自身の立場でもできる事を追求していきたいと感じた。
27.大阪	吹田市職員労働組合	頭が下る方々の実践と言葉でした。活動の中で、豊かなコミュニケーションされながらの報告に、柔軟なことの大切さを教わりました。微力な自分を認めてつとめよう、と思いました。この講座と関係ありませんが、大学1年の長女からは「就活のためにボランティアを友達はするよ」と初めて私は知りました。今、中間層が少なくなり、年金の支給延長や実質物価にくらべての低額年金、で地域のボランティアのおっちゃん、オバチャンの高齢化が進行しているように思います。学校のPTA活動は、一つのボランティア活動かな、と私は考えますが、今は、「仕事でもないのに仕事みたいなことできない」とPTA解散がチラホラ。それを阻止することにつながったらよいなおもいますが。(上から目線のつもりないですが)
00. 中央 団体	福祉保育労	発言された若者がそれぞれどのような思いで活動をしているか、よく伝わってきた。最後の「若者と社会保障」の発言にもっと時間を割いて、社会保障をめぐる思いや私たちの運動についてのイメージなどについて率直に語ってもらいたかった。
29.奈良	ならコープ労働組	パネリストとして参加させていただき、ありがとうございました。 ご期待に添えたかどうか、未来の社会保障についてほとんど、もしかすると全く話せていなかったが大丈夫だったのだろうか、という不安はありますが、とても有意義な時間になりました。ありがとうございます。 感想としては、大学生の皆さんがとても頑張っていることに感銘を受けました。机の上だけで終わらずに、現地に行くだけでも凄いことだと思いますが、その地域に入って活動をされていることが、本当に凄いと思い、とても良い刺激になりました。 伝承活動についてのお話では、「簡単に震災の事をかたっているのか、、、」と悩まれている、その悩みは今後、震災だけでなく、戦争の伝承活動にもあてはまることであると思いました。そして、そのことについて、皆さんもそれぞれの考えをお持ちで、とても凄いなと思いました。私は語り部の経験はありませんが、その必要性は今後高まっていくと思いま

第3講座 シンポジウム 「若者とともを考える社会保障の未来」の感想

		<p>すので、そういった活動にも参加していきたいと思いました。</p> <p>関西学院大学の「模型」のお話は、効率が求められる現代においては非常に重要なお話だと思いました。人と人が繋がるのは、効率や効果といってもものではなくて、やっぱり感情と感情なんだなと思いました。</p> <p>また、シェアリンク茨木の木曾さんのお話は、私自身の辛苦と、現在の個人的な活動と重なるところであったので、とても参考になりました。</p> <p>それに、コメントくださっていたように、シェアリンクさんの「数をやる」取り組み、「選択と集中」によって「選択されなかった人たち」を探し出す手法としては非常に有用であると思いました。ぜひ一度、シェアハウスへお伺いしたいなと思いました。</p>
25.滋賀	こびらい生協 診療所	<p>大学生の方たちが被災地のために！後世に伝えるために！と頑張っておられる姿に感銘をうけました。私は看護専門学校に通っていたこともあり、学生生活は勉強と実習をこなす日々でした。ボランティア活動にも参加したいという思いはあったものの、学校にボランティア活動を行う組織がなく、コロナ禍ということもあり機会もありませんでした。</p> <p>働いているだけでは社会保障に触れることもなく、疑問を抱くことをありません。</p> <p>被災地に訪れ、現地の人とふれあい会話することで社会保障とは何かについて学ばれているのになど実感しました。</p> <p>私もそういう機会に参加したいと思いました。</p>
27.大阪	淀協勤労者厚生協会 相川診療所	<p>本当に皆さんの 行動力と 活動内容に感激しながら聴いてました 大学生の時期だから高齢者にも可愛がられ 子どもたちとも繋がれると思うと話されてました 良いですね ほんとにそうだと思います 被災現地の人も地域の人も若い皆さんが居てくれるから 一緒に楽しんで 寄り添ってくれるから 元気が貰えると言う 寺内さんの最後のメッセージに共感しました</p>
27.大阪	大阪府保険医協会	<p>様々な活動をされている若い方の話を聞く良い機会となりました。</p> <p>まず勉強となったのは、今回の社保学校で何度も出てきた“主役はだれか？”ということと、“聞く”ということ。登壇者の若者たちは、聞くことが本当に上手だなと思いました。誰の言うこともまずは“聞く”、聞いたことを否定しないで、でも自分の意見を述べる。どこにいても“主役”が揺るがないのでそれぞれの活動もうまくいくのだろうと感じました。</p> <p>また、私はシンママ大阪応援団のスペシャルボックスに関わらせていただいています、今回の「模型」は、シンママ大阪応援団でいうスペシャルボックスだなと思いました。</p> <p>人と人を繋ぐ言葉ではないツール。</p> <p>このツールを使い信頼関係の構築ができて、対話へとつながる。</p> <p>更にもう一つ、シンママ大阪応援団のサポーターさんの言葉に「少しの力だけれどサポートします。繋がっていたいから。繋がっていたら、もしもの時には助けてもらえるかもしれないから」というのがあったようなことを思い出しました。</p> <p>仲良しの他人を増やす。今困ってなくてもこれから困るかもしれないから繋がりを続ける。決めつけずに関わって関わって・・・とにかく地道に数を。</p> <p>これが本来の行政の働きなのでは？と感じました。</p>
33.岡山	水島協同病院	<p>各団体のみなさんの報告にもとても励まされました。地域でのつながりづくりに取り組む木曾稔之さんたちの様子、阪神・淡路大震災よりもあとに生まれた学生のみなさんが悩み</p>

第3講座 シンポジウム 「若者とともに考える社会保障の未来」の感想

		や葛藤を抱えながらも被災地と関わりながら震災を伝承していく神戸大学のみなさんの様子、被災地域の模型制作をしながら対話を深める関西学院大学のみなさんの取り組みなど、とても興味深く感じました。
19.石川	石川県社保協	素晴らしい内容でした。ただただ感動して聞いていました。自分たちの「やりたいこと」を押し付けるでもなく、寄り添って、仲間と一緒に楽しく取り組んでいる若者たちの姿が希望に見えました。
40.福岡	社会医療法人親仁会	学生の時のパワーを失っているなど感じました。社会に出て生活、仕事をする中で、学生の頃に出来ていた NGO や NPO との関わりと運動ができなくなっている自分を感じました。行動するにはパワーが必要なんだと改めて感じました。
40.福岡	福岡医療団たたらリハビリテーション病院	普段関わることのない、地域や子ども、被災地への支援展開について様々な方が取り組まれている実情をより深く知ることが出来ました。
13.東京	東京民医連	大学生が各地の復興ボランティアに様々な形でかかわりを持っている話はとても素晴らしいと思います。大人はある程度現地が落ち着いたら、フェードアウトしてる場合が多い気がします。そのあともまちのイベントや震災の伝承活動等、現地を元気にする活動を継続されていることに驚きましたし、学生たちのパワフルな姿をみて元気になる方は多いと思います。大人という括りの私たちも誰もが安心して住み続けられるまちの実現に向けアクションを起こさないといけないなど感じました。
18.富山	富山民医連	「仲良しの他人をふやす。」が一番印象に残りました。シェアリンク茨木の木曾さんの報告で、困っている人を見つけるときに、子供が「困っている」と認識できるわけがないという言葉に大変納得できました。当事者は困っている認識がなく、こちらが決めつけるようなことでもない中で、どのような対応ができるのか、接触の機会を増やし、わずかでも認識してもらい取り組みが必要。ただ大人でも困っている人が、困っているとは簡単には言わない、本当に追い詰められていても、身内には言わない・言えないと感じた。その中で、仲良しの他人ならという考えもあると思うので、この活動の重要性を本当に感じる事ができた。このような青年が頑張っていることを知り、ただ震災ボランティアなどからいろいろと学んでいってほしいと感じた。また奈良コープの方の自分の経験をほかの方にしてほしくないという認識が大変すばらしかった。思い出すのも大変な状況だったとおもう。そのような地域の人をどのようにつながるかが、アウトリーチだと感じた。
38.愛媛	愛媛民医連	私も子ども食堂を運営しているので、子ども食堂の話は非常に共感できました。何もしないヤツに限って、「それに何の意味が、どの程度あるのか？」なんてドヤ顔で聞いてくるけど、そういうペラペラなヤツはどうでもいい。各地で信念を持って取り組みを実践されている方々の想いを聞くことが出来て幸せでした。オンラインでのシンポジウムは難しいけど、コーディネーターの長友先生の、押し付けない寄り添う姿勢で、みなさんが安心して発言されているのがよくわかって、聞きながら胸が熱くなりました。
36.徳島	徳島県社保協・徳島県民医連	若者が「楽しく」社会貢献活動に頑張っている姿、みな輝いて見えました。シールズの活動をしていた方のお話を聞いたことがありますが、「やりたくないことはしない。楽しく緩やかな集まり」をつくる事が大切。一方「運動が継続できなかったことはルールや規律をつんらなかつたこと」という一見、相反するお話でした。両者をうまく組み合わせ

第3講座 シンポジウム 「若者とともに考える社会保障の未来」の感想

		せる運動のマネジメントが必要などと考えながら聞いていました。
27.大阪	大阪民医連	若者の援助の実践を聞き、頼もしく感じた。自分自身 傍観者になっていないかと、反省しました。
25.滋賀	滋賀民医連	若者の多彩な活動報告がとても興味深かったです。様々な思いを持ちながら、自分たちにできることを考えて行動されている姿に学ばないといけないと思いました。 被災地ボランティアは大切な活動ではありますが、支援する側/される側のような関係性が固定化してしまわないよう注意を払う必要があると、学生さんのお話を聞いて感じました。共助・互助を進めつつ公助をしっかりと求めていくこと、そのためにあらゆる問題の当事者と共に声を上げることができれば行政を動かす力になると思います。そのような取り組みについてのお話も聞きたかったです。 問題は震災やコロナそのものではなく、それらが起こったときに命や人権を最大限守ることを放棄している政治に問題があるのだという認識を常に持つておきたいと感じました。
千葉	松戸社保協	3 グループ7名の若い方のお話、とても興味深く聞きました。震災を受けた方のわすれないでの想いがこのようなかたちで継承されていること、初めて直接(テレビではなく)聞き新鮮でした。長友先生の軽妙な進行もよかったです。そして子どもの貧困と社会保障への各々の困っているをどう見つけるかの話は私もいまも取り組んでいる千葉派遣村相談会のスタンスと同じと思った
埼玉	医療生協さいたま	未来は若者のものです。それぞれの団体が問題意識をもって自主的に活動されていることに敬意を評します。もう少し、それぞれの運営の苦労とか、費用面の工夫とかお聞きしたかったです。シェアリンクの木曾さんが、最後に何気なく公助という言葉を使っていたのが少し気になりました。
兵庫	兵庫社保協	若い人たちが、こんなに純粹に人のつながりを大切に考えていて、社会に問題を感じ行動していることに感動できる内容だ。震災 30 年と一言に言うが、体験もしていない自分たちがこの重い積み重ねを語っていいのか、との葛藤と自分たちにできることもあるのではないかと躍動がある。家父長制度の田舎で親が離婚、ヤングケアラーのように苦労して育った。学校には助けられないと言われ、親切だった大学は金が払えなく退学になったコープの青年に聞いた。新自由主義や自己責任論を主張する人は自分は若いころ苦労して頑張ったから生活ができています。生活保護の人は頑張っていないじゃないか、自業自得だとする人が多いが、そうは考えなかったのか？との答えは「自分が苦労したことを、もう一度やれと言われたら絶対嫌だというしんどい思いだった、そんな苦しい思いを誰にもしてほしくない、近くにいるなら手を差し伸べたい思いがある」。そうよねえ。それがあたりまえよね。と思える答えがうれしかった。このことだけはこの人の言葉で聞きたかった。SNSで何でも見られるが「現実には起こっていないように見えてしまう社会現象」。経済的困難がある、だから社会保障をあきらめない。など語り合われてたのが印象的だった。
京都	新日本婦人の会京都府本部	とてもおもしろかったです。さまざまな団体からパネラーがいたことで、やはり議論に膨らみが出ると思いますし、若者の言葉をきかせてもらうのは、いつも、無条件で元気が出ます。私にも若者である子どもがいますので、「いまどきの若者って？」という問いかけには、いつも身を乗り出して聴いてしまいます。今回は私は大学生がこのように災害のあとの地域に入って活動していることに、本当に嬉しく希望を持ちました。リアルな現実をみたり聴

第3講座 シンポジウム 「若者とともを考える社会保障の未来」の感想

		<p>いたりし、実際に祭りなどに参加することで、様々な思考を深めているんだなあと、聞いていて思いました。また茨木市の取り組みも「とにかく数を増やすことが大事！」の言葉が強く印象に残りました。新婦人の活動もどちらかというと「数」重視かな？</p>
福岡	福岡県社会保障推進協議会	<p>大学生や労組の青年の方たちが、地域社会の在り方を考え、より良い社会をつくるために、様々な活動を行っていることに感銘を受けました。自身の恵まれない境遇から、社会のしくみや政治の事に関心を持ち、誰もが安心して暮らせる日本にするために、行動を起こしていることにこちらも励まされる思いでお話を聴いていました。</p> <p>神戸大学の地域のコミュニティ活動や震災の伝承活動、関西学院大学の被災地の模型を製作する活動など、どれも興味深く、これからの日本において大切な活動だと感じた。模型が現地の方とのコミュニケーションのツールとなっていることを知ることができた。地域再生にはやはり人と人とのつながりがとても大切だということを改めて認識することができた。こういった活動をする若者が日本全国に広がると日本も希望が持てると思ったと同時にそういった人たちを育てていくことも社保協の役割と感じました。</p>
愛媛	愛媛民医連	<p>若者の活動にとっても感銘を受けた。「なかよしの他人を増やす、寄り添う、対話する」ことで地域社会に安心・安全が拡がり、ちょっとおせっかいなお姉ちゃん・お兄ちゃん、おじちゃん・おばちゃんが増えることで好循環が生まれ居心地の良さにつながると思う。私はトロやラピュタにある地域社会が理想なのですが…。</p>
千葉		<p>模型作りという、私には全く発想の湧かないモノづくりを通して、被災者の心に寄り添い、そして暖かさや未来を共有することに驚きました。被災地の語り部に対する向き合い方、葛藤にも唸らせる内容でした。現メディアでは被災地が「見せ物」になっており、情報を消費しているに過ぎない。現地に行って足を運ぶことの大切さの気づき、当たり前なのに気付かぬ言葉にしてくれて、感謝しかありません。「なかよしの他人を増やす」という言葉もそこに向き合う事でした産まれな言葉であると思いました…。</p> <p>一度も申し合わせの無い8人が集まった中での中身の濃い、心震えるセッションになったことは驚きと共に、共通項が多分にある思想、活動であることも納得しました。それぞれの会ったこともない青年たちが、活動している種類も違います。しかし、過ごした時代背景と時代矛盾により、等しく負った傷とそれから産まれる思想により、出会った(産み出した)ボランティア活動。それは正義の理論や分断とは正反対で。具現化されたもの理念は言葉で表すならケアの倫理であり、包摂であり、社会的共通資本であり、と相似であり、産まれる思想は自ずとそうである事にも驚きの後に直ぐに納得するのです。社保協の端くれである事から、直ぐに若者たちに社会保障への働きかけのアドバイス、と言う形でマウントを取ろうとする事は「良くある話」ですが、それが微塵も湧いてこない、むしろリスペクト120%で胸がいっぱいになりました。社会保障へ繋ぐ前にしなければならない事の多さと葛藤の少なさとの大切さに気付かされました。むしろ政治へ繋ぐまでのデリカシーの無さやケアの倫理の不足に自己反省するばかりでした。圧巻でした。また、青年たちから学びなおしたいと思いました。</p>

全体を通じての感想

47.沖縄	沖縄協同病院	貴重な機会でした。職場のスタッフに広めたいと思います。
00. 中央 団体	全商連	居住権の保障、ケアについて、左派の社保運動が真正面から受け止めきれなかった部分について言及されたように思う。この提起を、さまざまなアクターと手を取り合っどう進めていか、どんな方向性で進めていか、問われているように思った。
36.徳島	徳島健生病院	社会保障に関して一人一人がしっかりと考えを持つことが大事だと思いました。また、行動することの難しさがある中で活動している人を支え、応援・支持することも大事だと思いました。このような活動や取り組みをしていることを伝え、広めていくことで一人でも多くの人に関心をもらい、何かできないかという考えに繋がってほしいと思いました。自分自身も何かできることをしっかりと考え行動に移せる人になっていきたいと思いました。
38.愛媛	愛媛生協病院	社会について色々な視点から考えることができ有意義な時間でした。ありがとうございました。
40.福岡	大牟田市社保協	1日目の田中先生のお話やデータが分かりやすく、また2日目のパネリストの順番が良く、スツと情報が入り、深く考えさせられました。そこに若者とのシンポジウムで、社会保障改善の活動に対し、「諦めるな！」と強く肩をたたかれた思いです。「コモン」や「ケアの倫理」など霧がかかったように漠然としていたものの輪郭が見えてきたような感覚であります。自団体から私1人の参加であり、もったいない気がしています。せめて少しでも多くのことをまずは自団体へ伝えたいと思います。ありがとうございました。
27.大阪	茨木居宅	あまり震災の復興状況とかあまり教えてもらえないことも聞けて良かったです。勤続年数の長い方は視聴していない人もいようで何と言っているか分からないです。
34.広島	広島民医連	おそれず対話することを心掛けていこうと思います。日本が住みやすい国になるように、自分達で関わっていかないといけないと感じる2日間でした。
00. 中央 団体	福祉保育労	2日目だけの参加でしたが、大いに刺激ももらえる社保学校でした。開催方法の変更など、事務局のみなさんにご苦勞されたことと思います。お疲れさまでした。
34.広島	広島民医連	対話というワードが印象に残りました。身近な自分のコミュニティ(家族、職場、サークルなど)のなかで、しっかり対話できてるかな？対話を大事にできてるかな？、自分が対話に加わらなくても解決されてることってたくさんあるけど、それでいいのかなと自問自答しました。また、対話の基本は傾聴であること、そして自己内対話も大切であることも学ぶことができました。日常生活で実践していきたいと思います。
00. 中央 団体	全日本民医連	講師やパネリストを開催地のメンバーで揃えるというこだわりは見事だと思った。アンテナを低くしては知りえない、ご当地の状況も知る事ができた。事前準備はもちろん直前での開催形態の変更も含め、関係者の皆様のご苦勞は大変だったと思います。とても勉強になる学校でした。ありがとうございました。
27.大阪	吹田市職員労働組合	とてもありがたい学びの機会となりました。今、南海トラフの危険性が高まっている中、深呼吸して、今日の学びを少しでもまとめて、日々の仕事、組合活動、その他の時間にも活かしたいです。先生方の著書も読んで、豊かなコミュニケーションにつながればよいなど考えています。苦手なこと満載の自分の欠点をみつめつとめようと思います。関係された皆様方、参加された方々、多くの皆様に深謝申し上げます。
00. 中央	福祉保育労	講義を連続的に受講して終わりという構成は時間の関係でやむを得ないと思うが、今日

全体を通じての感想

団体		の「政治と社会保障」のディスカッションでも示されたように、運動体内での対話をもっと模索していくことが必要だと思う。たとえば、社保学校の最後に30分ほど3～4人のグループに分かれて、気づけたことややってみたいことを一人ひとりが出し合って共有するというのも企画してもらいたい。インプットだけでなく言葉にして伝えあうことも重視していきたい。少人数で思いを出し合うことは、心理的安全性や対話、一人ひとりを大切にするという点で、社保学校に限らず、学習企画や会議でも大事なポイントだと思う。
29.奈良	ならコープ労組	今回、ならコープ労組 委員長の松本からの声掛けで初めて参加させていただきましたが、驚くほど良い機会になりました。 これを機に今後も参加させていただきたいと思いますので、労組で話をしてみようと思います。 台風が来ている中、本当にありがとうございました。
25.滋賀	こびらい生協診療所	社会保障を学ぶ機会がなかったので、今回の zoom はすごく面白く興味が湧く内容でした。このような場を設けて下さり感謝します。また社保の勉強会に参加したいと思います。
27.大阪	淀協勤労者厚生協会 相川診療所	社会保障 の充実は今本当に求められていると思います ケアの理念が浸透していけば世界の紛争も減らせるのではないかと思いました 中央社保学校初めて参加しました 企画準備して下さい皆様 ありがとうございます
27.大阪	大阪府保険医協会	最初から最後まで、「主役は誰か」「始まりは“聞く”」ここに尽きました。 この二つが欠けると誰かを置き去りにしたのと同じになると思います。 常にこの2つを忘れないようにと強く思いました。 初めての社保学校でしたが、とても深い時間となりました。 次回も参加したいと思います。ありがとうございました。
33.岡山	水島協同病院	2日間、とても有意義な学びの機会となりました。能登半島地震からの復興も十分に進まず、社会保障が切り下げられるなかで、本当に時節にかなったテーマでの社会保障学校だったと感じます。学んだことをしっかり生かして、いのちと暮らしを守る取り組みを大いに進めていきたいと思っています。
19.石川	石川県社保協	台風で大変な中準備、運営に携わられたみなさんお疲れ様でした。ありがとうございました。
40.福岡	社会医療法人親仁会	運営お疲れ様でした。もともとオンラインでの参加でしたが、現地に行かないことでシンポジウムの会話で飛び交っていた大阪の土地のことなどがいまいちわからず、落とし込むのが難しかったと感じました。実際に訪れることは大切ですね。ありがとうございました。
40.福岡	福岡医療団たたらリハビリテーション病院	できれば ZOOM ではなく、直接集合をして話を聞きたかったと思いました。大阪自体は電車も動いていたようですが、ただし関東方面からは大阪に来れなかった(新幹線や飛行機が動いていない)ので致し方なかったと思いますが。
27.大阪	西淀病院	一日目だけの参考でした。ありがとうございました。
18.富山	富山民医連	今回も大変良かったです。アツというまに終わりました。
38.愛媛	愛媛民医連	台風の影響で現地開催が困難となり、完全オンライン開催へ直前での切り替え本当にご苦労さまでした。第 1 講座「災害復興政策の根本問題」(追手門学院大学・田中正人氏)の講演動画を配信していただきたいです。資料に無いスライドもたくさんあったかと思えます。講師の了解が得られたら欲しいです。佐賀県は私の出身県です。来年は現地で参加

全体を通じての感想

		します！
36.徳島	徳島県社保協・徳島県民医連	台風による全面 web 開催への変更対応、大変だったことでしょう。実行委員のみなさん本当にありがとうございました。
47.沖縄	沖縄医療生協浦添協同クリニック	自分の地域でも年一回は地震に対する訓練を行ってます。改めて今回の講演での事も参考に地域で活かしていきたいと思います。
27.大阪	大阪民医連	台風の影響により、直前で段取りが大きく変わりましたが、そつのない運営でした。ありがとうございます。
25.滋賀	滋賀民医連	2日間の講座を通じて、「社会保障」の言葉から連想するイメージがとても大きく広くなりました。社会保障をお荷物としてではなく政治の中心・経済の中心に置く、社会保障と対極にある軍事化を止める、そのための運動が求められていると学びました。
千葉	松戸社保協	大変な天候の中、このように素晴らしい学校を実現していただき、ありがとうございました。感謝です全ての方に。大川小のボランティアの話聞き、子どもたちを失った親たちの裁判で闘った記録と映画「生きる」を思い出しました。
徳島	徳島県民医連	徳島県母親大会の日程と重なり、8/31 のみの参加となりました。9/1 の内容もとてもよかったと聞いたので、参加できず残念です。個人的に遠方での学習会参加が難しいので、オンライン学習会はとてもよい学びの機会です。できれば今後も続けて頂きたいと思います。
兵庫	兵庫社保協	「こうしよう」と決まった話し合いではなく。試行錯誤の議論がよかったと思う。生き活きと、人と会う活動を語る若いシンポジストの姿は、見ている参加者に感動を与えた。
愛媛	愛媛民医連	対面で参加できなかったことがとても悔やまれるたいへん充実した社保学校でした。台風接近で事務局のみなさまは大変なご苦勞をされたことと思います、ありがとうございました。次回は現地で熱気を感じながら学びたいです。
千葉		準備された方々お疲れ様でした。2日間でトータル9時間という長丁場を座学として学ぶのは正直少しきついかないと思いましたが、想像を超える非常に充実した時間を過ごすことが出来ました。パネリストや講義された方々の内容もさることながら、企画された大阪の方々の企画力にもリスペクトです。ここ数年間このような学びから遠のいていました。が、学ぶ意欲に再び火が付いたように思います。まだまだ私にやれる事があることに気が付かされました。運営の方への要望はありませんが、地元県で参加者の方々と一緒に感想交流もあってよいかないと思いましたが、地元千葉でも微力ながら社会保障運動に邁進したいと思えます。